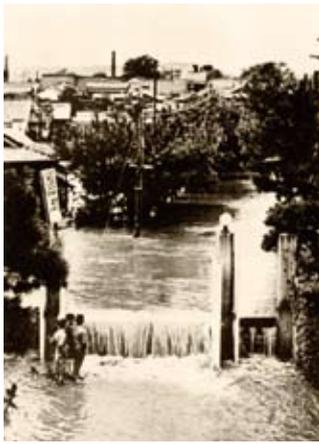


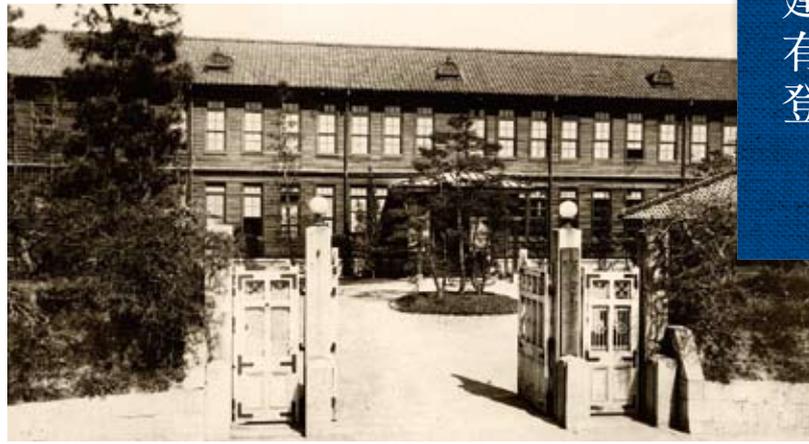
建造物登録 有形文化財 登録記念

正門及び石積
東書庫・西書庫
柔道場

故きを温める 歴史を刻んだ文化財



昭和9年(1934)9月21日の室戸台風水害の惨状を伝える写真



大正9年(1920)の卒業アルバムから。門扉は開校当時のまま。



昭和20年(1945)の理科乙類の卒業アルバムから。門扉は暗色に塗られている。石積が追加されている。



大正15年(1926)理科甲類の卒業アルバムから。門扉が更新されている。この門扉は修理を重ねながら中央の門扉は昭和49年まで、脇の門扉は平成3年まで使用された。



昭和53年(1978)のアルバムから。違法駐車されないよう縁石を設け、タマツゲを植栽。脇の門扉には駐禁の看板。



昭和26年(1951)朝日高校がこの地に移転した。写真は昭和29年の卒業アルバムから。門柱に朝日高校と烏城高校の門標が掲げられた。



平成18年(2006)。ツツジが大きくなり円弧を描く石積がみえなくなった。



平成17年(2005) 校庭南側の石積

正門及び石積

正門は明治33年(1900)の六高開校に合わせて築造された。門柱の前には洪水の際に校地内への水の浸入を防ぐための前後2枚の堰板を落とし込む樋門石が設けられている。

昭和9年(1934)9月の室戸台風では、堰板が落とされたと、防ぎきれず水が校内に流れ込んだ。

現在、正門外側の石積は5段積みだが、開校当時は3段だった。積み増しされた時期は室戸台風後から昭和17年(1942)年頭までと考えられるが、正確な時期は確定できない。

正門前には昭和51年(1976)、円弧を描く正門前面左右の空間に縁石を設けて矩形に区切り、違法駐車ができないようにした。また、矩形に区切られた場所には玉石を敷き詰め、タマツゲを縁石に沿って植栽した。その後ヒラドツツジが追加の植栽された。

登録有形文化財登録を受け、本年3月正門前の植栽を校内に移植して地面も整備し、円弧を描く石積がはっきり見えるように改修工事を行った。(表紙写真)

3mに届くような石積の上に建つ六高は旧山陽道の方から見ると、水田の中にそびえる城郭